

福島市

認知症施策～認知症の方に優しい地域づくりのために～

福島市の概要

本市の高齢化率は29.1%と市民の3人に1人は65歳以上であり、高齢者の3人に1人が認知機能に低下がみられると推定。本市では“認知症の人も周囲の人も、安心して、自分らしく暮らし続けるまち”を目指し「福島市版オレンジプラン2018(認知症施策)」(第2期計画)を策定した。認知症の人の尊厳が保持され、地域の一員としてその人らしく暮らし続けることができるよう、周囲の人々が認知症への理解を深め、温かく見守ることができる地域づくりを進めている。

【基本情報】

平成30年12月末日現在

- 人口 279,307人
- 65歳以上高齢者人口 81,241人
- 高齢化率 29.1%
- 要介護認定率 19.9%
- 第1号保険料月額 6,100円
- 地域包括支援センター 22カ所(委託)



1 認知症徘徊模擬訓練

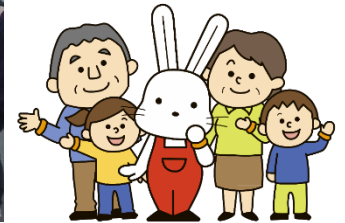
●目的

認知症の人が行方不明になったという設定のもと、地域のネットワークを活用し「通報～連絡～搜索～発見・保護」の流れや実際の対応を訓練する。これらの取り組みを通じ、地域住民のつながりを強くし、地域での日頃からの見守る力を高める。

●事業内容・結果

平成26年度 2か所
平成27年度 3か所
平成28年度 4か所
平成29年度 5か所
平成30年度 5か所

年々増加！



開催までの道のり

地区組織と地域包括支援センター等の介護事業所等が協力し組織を結成。何度も話し合いを重ね準備を進める。地域住民が認知症を理解し、地域の課題として取り組むことができるように、認知症サポーター養成講座を小さな単位で開催。小中学校でも開催している。

参加者の感想

実施後には感想や課題について話し合いを行う。声かける側からは「どう声かけてよいか悩んだ」「相手を傷つけないように話す事、難しかった」「こちらの声掛けに反応してもらえない時はどうすればいいのかな」などの感想が、認知症役になった方からは「突然声掛けられてびっくりした」「穏やかに声かけてもらえると安心した」などの感想が聞かれた。

●市の支援

- ・地域包括支援センターの後方支援。
- ・「認知症地域支援事業」により、1団体30,000円の運営費を補助。

2 認知症高齢者QRコード活用見守り事業

●目的

外出後帰宅困難の可能性のある認知症高齢者の事故防止、介護者の負担軽減、地域での見守り体制の充実を図る。

●事業内容

認知症の高齢者が保護された際に早期に身元が判明できるよう事前に「QRコードシール」を交付。QRコードを活用し親族へ連絡、保護へとつながる。



QRコードシール



●登録状況 146件登録 (H30年12月末日現在)

●発見事例 5件

3 地域見守りネットワーク事業

●目的・内容

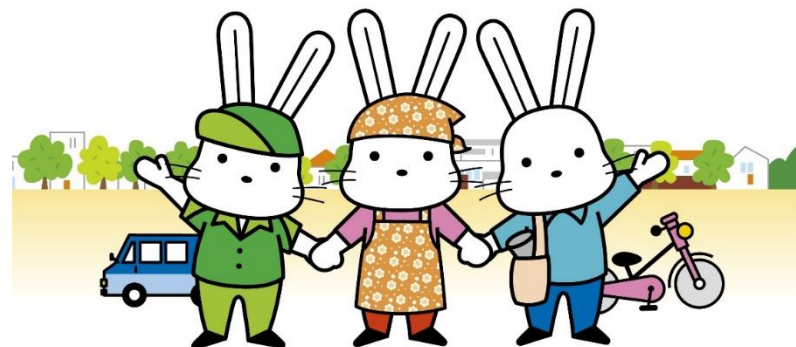
民間事業所などの本来の業務に支障のない範囲で、さりげない見守り活動に協力いただき、地域住民の異変の早期発見早期対応に向けた連絡体制をつくる。

●協力事業所数 H30年12月末日現在

385事業所

(新聞販売店、コンビニエンスストア、
ハイヤータクシー協会、電気商工組合 等)

●発見事例 10件



成果と課題

取組の成果

- 徘徊模擬訓練を実施したことで、参加者は認知症のご本人への声のかけ方、見守り方について考えるきっかけとなった。また、地域住民同士のつながりが深まると同時に地域住民と関係機関との連携が強化された。
- 認知症高齢者QRコード活用見守り事業では、実際に5件の発見事例もあり、認知症高齢者の事故防止と介護者の負担軽減につながった。
- 地域見守りネットワーク事業では、民間企業等の高齢者のさりげない見守りにより、緊急時の早期発見、早期対応の体制をつくることができた。また、高齢者支援における地域資源の発掘にもつながった。

今後の展望

- きめ細やかな認知症サポーター養成講座等の開催により、地域住民の皆さんへの正しい知識の普及と地域課題の共有を図る。
- 事業の周知や実際に市内で行われている地域の取り組みに関する情報発信
- 行方不明高齢者について、市と地域見守りネットワーク協定事業所との双方向の情報伝達
- 行方不明高齢者が市外に行ったことを想定し、広域連携に向けた課題の整理や準備

事業が効果的に活用
され早期に発見でき
る体制づくり

地域の中で気になる
人に声をかけ見守り
支え合いができる
地域づくり

認知症の人が安心
して出かけられる
地域づくり

浅川町

『運動と脳の健康教室』の連動した実施と継続的な運動支援

【浅川町】の概要

福島県中通りの南部に位置し、面積は37.43 km² 阿武隈山系の自然と田園風景に囲まれた緑豊かな町です。
毎年8月16日におこなわれる供養花火大会は300年以上の歴史があります。

【基本情報】 (平成31年1月末現在)

- 人口： 6,430人
- 65歳以上高齢者人口： 2,086人
- 高齢化率： 32.4%
- 要介護認定率： 14.33%
- 第1号保険料月額： 5,400円
(基準月額)
- 日常生活圏域： 1地域
- 包括支援センター： 委託 1か所



取組の内容①

●背景

当町の介護保険申請の要因の3割が、関節の疾患などの運動器の障害と認知症となっており、運動機能を保持する取組及び認知症予防対策は、優先して取り組まなければならない課題となっている。

トレーニング機器を平日開放をし、高齢者が毎日通える場の確保と交流の場づくり、また、『脳の健康教室』のサポーターを養成し、運動支援と認知症予防の事業を並行して行う必要があると考えた。

●事業内容

目 標

- ①元気高齢者の心身の健康維持及び増進（転倒予防・認知症予防）
- ②地域の通いの場を育む（介護予防）
- ③地域づくりの担い手養成及び継続支援（地域づくり）

対 象

おおむね65歳以上の町内の高齢者及び要注意者

取組の内容①

●事業内容

- ①トレーニング機器を8種12台、保健センター内に設置。
個別支援のためスポーツインストラクターを月2回配置し、トレーニング機器の取り扱い方、個人の体力にあった運動プログラム作成し、また、地域交流の場としていく。
- ②サポーターを養成し、脳の健康教室（30分間の音読と計算問題、数字盤）とトレーニング機器を活用した筋トレ（30分間）を併せて実施。
週1回×24週間（7月から12月まで）実施。また、毎週1週間分の宿題（1にあたり15分程度）に取組み、翌週に提出をする。

※脳の健康教室は、くもん学習療法センターと東北大学・川島隆太教授の共同開発された脳の健康維持法を活用。サポーター1人が受講生2人にグループ支援をおこなう。

時 間	内 容
13:00~13:30	スタッフミーティング・会場準備・担当確認
13:30~13:15	導入（回想法・脳トレゲーム等）・交流
13:30~14:00	前半チーム：脳の健康教室 後半チーム：運動 交流
14:00~14:30	前半チーム：運動 後半チーム：脳の健康教室 交流
14:30~15:00	会場片付け・スタッフ共有会・振り返り

成果と課題

取組の成果

- トレーニングを毎日の日課として取り組んでいる方が多く、顔見知りになることで、一人で取り組むより互いに声かけ合って継続できているとの声が聞かれるようになっている。
- 運動を毎日できる場所が確保できたこと・指導者を配置したことで、個人の健康維持や介護予防に効果がでている。

登録者数 110人 述べ利用者数 3,098人(H31.1月末現在)

- 脳の健康教室のサポーターを募集したところ、新たなボランティアを養成する事ができた。
- 脳の健康教室の参加者全員が、参加前より「生活の活動範囲が広がった。」「頭の回転が速くなった」と感想を述べており、参加率も8割を超えていた。

今後の展望

- 運動をする習慣づくりのため他の事業をタイアップしながら、利活用の推進を図っていきたい。
- 脳の健康教室については継続者の支援のため、サポーターの拡充等に取り組む、自主組織づくりにつなげていきたい。



白河市

「認知症になっても住み慣れた地域で暮らしたい」
～認知症を学んだスーパーボランティア！～

白河市の概要

白河市は、日本最古の公園といわれる『南湖公園』、南北朝期に結城親朝により築かれたのがはじまりとされる『小峰城』、日本三大提灯まつりの一つに数えられる『白河提灯まつり』など、豊かな自然や多くの歴史的・文化的遺産が現代へと受け継がれているまちです。

【基本情報】（平成31年2月1日現在）

- 人口
61,114人
- 65歳以上高齢者人口
17,185人
- 高齢化率
28.11%
- 要介護認定率
17.77%
- 第1号保険料月額
5,900円



白河市の認知症施策

(1) 認知症支援体制の整備

- ①認知症地域支援推進員の配置
 - ・平成30年度から高齢福祉課に嘱託職員として専任配置
- ②認知症初期集中支援チームによる早期対応
 - ・医療法人社団へ事業委託
- ③認知症に関する関係機関との連携及び多職種協働研修の実施
 - ・初期集中支援チームによる研修会及び情報交換会の開催
(アセスメントや具体的な対応方法の共有、検討等)
 - ・在宅医療拠点センターが職能団体と共催で多職種連携研修会の開催
- ④徘徊高齢者への対応
 - ・認知症高齢者等徘徊SOSネットワーク事業

(2) 認知症の理解の普及・啓発の推進

- ①認知症ケアパスの普及
 - ・定期的な情報の更新
 - ・市民や関係機関への提供
- ②認知症サポーター等の養成及び活動場所の充実
 - ・認知症サポーター養成講座の開催
 - ・認知症高齢者等ボランティア「あんしんメイト」の養成
- ③認知症カフェの支援
 - ・認知症地域支援推進員が運営
 - ・「あんしんメイト」が当日の準備から片づけ、イベントの企画を行う

認知症サポーター養成講座のステップアップ講座を修了した認知症に関するスーパーボランティアです！

☆その他市民向けに認知症フォーラムを開催

認知症高齢者等ボランティア「あんしんメイト」

認知症高齢者等が住み慣れた地域において、生きがいを持つとともに心身の機能の維持を図ること、及び、介護家族の身体的・精神的負担の軽減を図るためのサービスを行うものとする。

(1) 対象者の居宅や施設等の生活の場を訪問し、話し相手や趣味等の生きがい活動の支援等を行う。

施設を定期的に訪問し、会話を楽しんだり、イベントのお手伝い等を行います。



毎月の訪問で顔なじみに。おしゃべりすることを楽しみにしてくれています。

(2) 居宅訪問による介護家族の悩みの傾聴や、介護家族が気軽に集うことのできるサロンの運営補助等、家族の介護負担の軽減に資する活動を行う。

ご自宅を訪問し、本人の趣味活動のお相をしたり、ご家族の悩みに耳を傾けます。



カフェでは皆さんが楽しい時間を過せるような企画をボランティアの皆さんが自ら考えます。

(3) 市や地域包括支援センター等が実施する、認知症に関する講演会等の運営補助を行い、認知症の正しい知識の普及・啓発に資する活動を実施する。

認知症フォーラムの受付や会場案内の補助、寸劇等に参加し、普及啓発を

寸劇は、認知症を知ってもらうための初の試みでした。毎週みんなで集まって、最高の劇ができました。



認知症フォーラムの成功のカギは皆さんのご協力にありました！

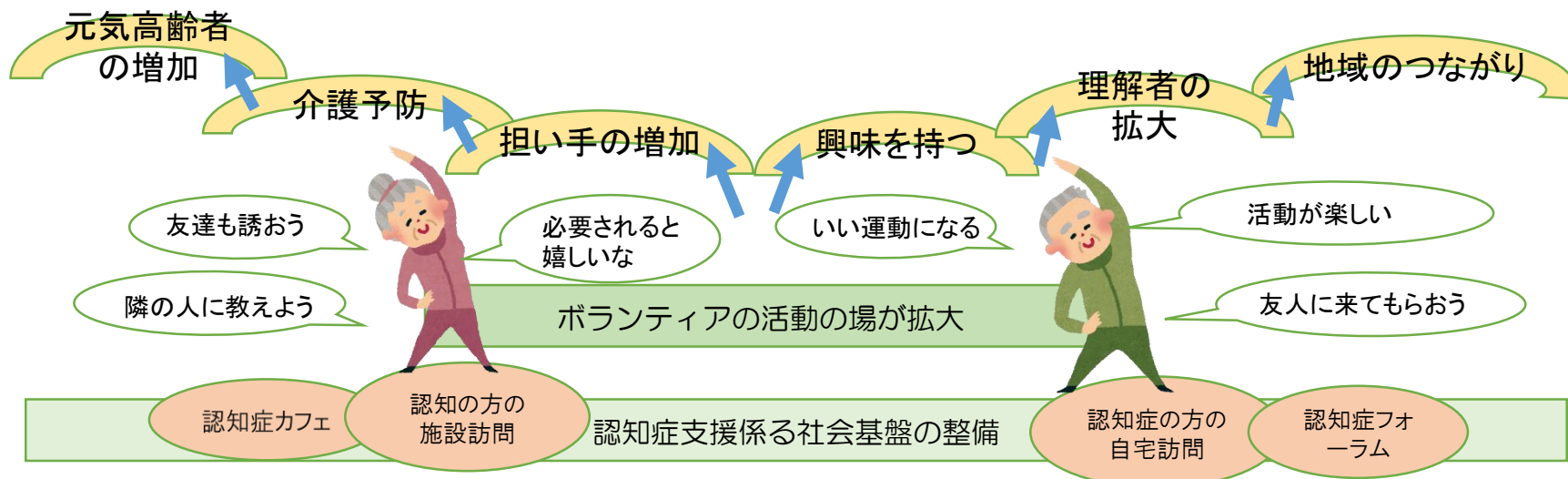
(4) その他、認知症高齢者等とその介護家族が地域において安心して生活が送れるように、必要と認められる活動を行う。

成果と課題

取組の成果

認知症地域支援推進員が配置され、ケアパスの作成、認知症カフェの設置等、基本的な施策がバランスよく整備されたことで、認知症支援に係る社会基盤が整った。

そのことは認知症高齢者等に対する支援の担い手として養成された「あんしんメイト」の活躍の場所を拡大することにつながった。活躍の場が増えると、やりがいが増す。また、活動が楽しくなり自分達で考えるようになる。そして人に教えたくなる。勧めたくなる。やがて、地域に広まり、自然と住民主体の活動へつながっていく。



今後の展望

認知症高齢者等ボランティア「あんしんメイト」の人数も71人となり、活動の幅も、「決められたことをこなす」から「自分達で活動を考える」スタイルに変わりつつある。

今後もメンバーが楽しく、自発的に活動を続けられるよう、認知症地域支援推進員を中心に活動を支援していきたい。



【会津美里町】の概要

会津美里町は、会津高田町、会津本郷町、新鶴村の旧3町村が合併して平成17年10月1日に誕生しました。当町は「福島県一認知症にやさしい町」を目指して、平成27年度から認知症地域支援推進員を配置し、同年から見守りサポート訓練を実施しています。

【基本情報】

- 人口
20,427人（平成31年2月1日時点）
- 65歳以上高齢者人口
7,541人
- 高齢化率
36.85%
- 要介護認定率
20.82%
- 第1号保険料月額
6,200円



取組の内容①

●背景

認知症行方不明者の早期発見や声かけ、行方不明者発生時の連絡体制の確認・整備を行うことを目的とし、平成27年度から毎年開催している。

平成27年度・28年度：広域的な訓練

認知症行方不明者の早期発見や声かけ、行方不明者発生時の連絡体制の確認、整備を目的とした訓練を町内3地域で実施。

平成29年度・30年度：地域密着型の訓練

地域内でのつながりに着目し、地区単位で認知症行方不明者の早期発見や声かけ、行方不明者発生時の連絡体制の確認、整備を実施。

●事業内容

・事業主体 … 会津美里町認知症対策サポート会議

平成24年8月から設置。医療・福祉・行政・地域住民などの関係者で構成されている。

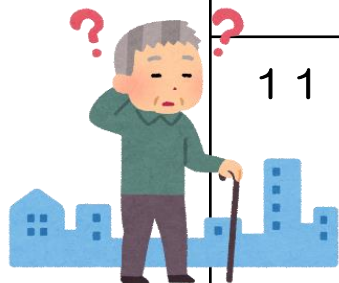
・訓練実施までの流れ

認知症対策サポート会議メンバーと対象地区の方で構成された「認知症見守りサポート訓練検討部会」で数回にわたり打合せを行い、町内医療福祉関係機関地区の方たちと共同で準備・運営していく。

取組の内容②

●平成30年8月18日（土）実施した訓練のスケジュール

時間	内容
10:00	開会 オリエンテーション
10:10	会津美里町の認知症施策と見守りネットワーク ・劇団オレンジじげんによる寸劇などを交えた講義
11:00	見守りサポート訓練 ・劇中のおじいちゃんがいなくなってしまったという設定で公民館周辺を探索&声かけ体験 ・グループ単位で探索し、グループリーダーと一緒に声かけの仕方などを話し合い実践する
11:30	休憩 ・地区の方が作ってくださった豚汁や軽食を食べながら訓練の振り返り
12:30	まとめ・全体での振り返り ・訓練を通して感じたことなどを話し合う
13:00	閉会



●協カスタッフ

包括支援センター、町内介護事業所、医療関係者、地区の方、警察署、行政

成果と課題

取組の成果

- 夏休み期間に実施することで子どもさんの参加が増えた
- 区内での顔の見える関係づくりのきっかけになった
- 地区の方と介護や医療関係者の距離が近くなった

今後の展望

- 認知症見守りサポート訓練が浸透し、見守り体制が強化される
- 広域での訓練の実施
- 親子での参加者の増加



会津美里町認知症見守りサポート訓練キャラクター
「みまもーるくん」

榊葉町

認知症の方が榊葉町で安心して暮らし続けられるための支援

【榊葉町】の概要

- ・東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故に伴う国の避難指示が平成27年9月5日に解除されてから、約3年5ヶ月が経過。平成30年3月末で仮設住宅、借上住宅の供与期間が終了し、平成31年1月末現在の居住人口は、3,641人、居住率は、52.25%となっている。町では、町民が榊葉町内で健康で生きがいをもち安心して暮らせるような環境を整備するよう取り組んでいる。
- ・榊葉町内の高齢化率が高く、地域包括ケアシステムの深化を推進している。

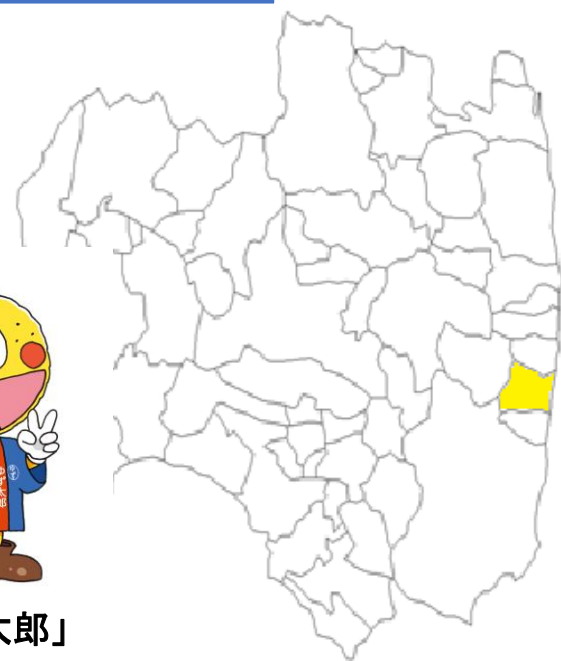
【基本情報】（平成31年1月31日現在）

- 人口
 - 住民基本台帳 6,969人
 - 居住人口 3,641人
- 65歳以上高齢者人口
 - 住民基本台帳 2,273人
 - 居住人口 1,401人
- 高齢化率
 - 住民基本台帳 32.62%
 - 居住人口 38.48%
- 要介護認定率 20.98%
- 第1号保険料月額 7,600円

榊葉町の位置



「ゆず太郎」



認知症初期集中支援チームの設置

●背景

認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で暮らし続けられるよう認知症の方やその家族に早期に関わる支援チームを設置し、認知症の初期段階における総括的、集中的支援を行う。

●事業内容

平成30年度に双葉郡8町村（楡葉町・富岡町・広野町・浪江町・川内村・大熊町・双葉町・葛尾村）共同で認知症初期集中支援チームを設置した。

チーム員は、認知症サポート医、保健師、看護師、ケアマネージャー、社会福祉士、精神保健福祉士等の専門職で構成されている。

認知機能の低下により、日常生活の中でどのような困難さがあるのか、家庭訪問を行ってご本人やご家族の状況を確認し、最長6ヶ月を目安に医療機関の受診や、介護サービス利用のサポート、症状にあった対応アドバイス等の初期支援を包括的・集中的におこなう。

8ヶ町村内の課題協議の場でもある。



認知症カフェ

●背景

認知症の方やその家族同士が、情報交換や悩みなどを共有したり、専門職に相談しながら、安心して樫葉町で暮らしていけるようにする。また、認知症に対する住民の正しい知識と支える意識を持ってもらう。

カフェ運営ボランティアの呼びかけ

●事業内容

お茶を飲みながらの参加者同士の交流と情報交換、医療関係者をはじめとした認知症ケアの専門家との相談。

警察や関係機関の方々との講座の実施。

認知症予防のレクリエーションの実施。



カフェなごめ～る



成果と課題

取組の成果

- 平成30年度初旬に双葉郡8町村（楡葉町・富岡町・広野町・浪江町・川内村・大熊町・双葉町・葛尾村）共同で認知症初期集中支援チームを設置した。
対応件数 4件 適切な専門機関に繋げることができた。
- 認知症カフェについては、平成30年度は2回開催。

今後の展望

- 認知症の方やその家族が楡葉町で安心して暮らせるよう支援体制を確立させる。

